

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 13 日現在

機関番号：15401

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2023

課題番号：17K13409

研究課題名（和文）科学の源流と形而上派詩人たち - 17世紀英文学と磁力

研究課題名（英文）Metaphysical Poets and Science

研究代表者

松本 舞 (MATSUMOTO, Mai)

広島大学・人間社会科学研究科（文）・助教

研究者番号：00754326

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,800,000円

研究成果の概要（和文）：当初の予定では、多くの国際学会での参加を予定していたが、COVID19の影響により学会が数年間中止になり、17世紀英文学や歴史学の学者たちとの議論が十分にできなかった。だが、ヴォーンの国際学会であるThe Vaughan Associationに参加し、ジョナサン・ポスト、ドナルド・ディクソンなどの研究者との議論によって、ヴォーンの科学的知識と自然描写の関係をさらに深める考察ができた。2018年に開催された大会では、ヴォーンの詩的表現の中でも磁力の表現を分析し、口頭発表を行った。この発表をもとに、新たな考察を加え、Scintilla 22（2019年4月出版）に論文を掲載することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ヘンリー・ヴォーン研究において、ヴォーンの自然描写についての議論は以前から行われていた。また、彼の自然描写が神秘主義思想に基づいたものであるという見解は多く示されていた。本研究は神秘主義思想に拠ったヴォーン自然描写が天と地の交感関係を主眼とし、その中に清教徒革命に対する批判が込められていることを明らかにした。これはヴォーン研究における新たな見解であり、これは、科学的知識と宗教的な祈りという、一見すると相反するものであると認識されうる二つの要素を一つの詩の中に表現にとりこむことで、権力を奪われた者が、政治的宗教的混乱が招く戦時下においての抵抗を試みることができることを明らかにしたものである。

研究成果の概要（英文）：Due to the influence of the COVID19, the conference was canceled for several years, and it was not possible to have sufficient discussions with scholars of 17th-century English literature and history. I made discussion researchers such as Jonathan Post Donald R. Dickson when I attended the annual colloquium of the Vaughan Association. I submitted the paper, titled 'Magnetic Power in Henry Vaughan's Poetry'. The final goal of this study, which was to publish in Scintilla, was achieved in the second year of the study.

研究分野：人文学

キーワード：ヘンリー・ヴォーン 17世紀英文学 磁力 神秘主義思想 交感関係

## 様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

研究開始当初は、形而上派詩人の研究について、錬金術の文脈でとらえなおすということに焦点を当てる研究はわずかに見られたものの、ヘンリー・ヴォーンをはじめとする形而上派詩人たちが神秘主義思想の影響を受け、自然描写を行っていたという枠組みの中での研究にとどまっていた。

### 2. 研究の目的

本研究では、詩人たちの伝記的な側面も考慮したうえで、彼らの詩的表現を錬金術の文脈でとらえなおすことによって、詩人が用いる自然描写に政治的な役割が内包されていることを明らかにする。

### 3. 研究の方法

広島大学に導入した Early English Books Online を用いるとともに、イギリス英国図書館、オックスフォード大学ボドリアンライブラリーの手稿を調査する。また、ヘンリー・ヴォーン国際学会 The Vaughan Association で 17 世紀初期近代の研究者たちとの議論を行う。

### 4. 研究成果

当初の予定では、多くの国際学会での参加を予定していたが、COVID19 の影響により学会が数年間中止になり、17 世紀英文学や歴史学の学者たちとの議論が十分にできなかった。だが、ヘンリー・ヴォーン国際学会である The Vaughan Association に参加し、ジョン・ポスト、ドナルド・ディクソンなどの研究者との議論によって、ヴォーンの科学的知識と自然描写の関係をさらに深める考察ができた。2018 年に開催された大会では、ヴォーンの詩的表現の中でも磁力の表現を分析し、口頭発表を行った。この発表をもとに、新たな考察を加え、*Scintilla* 22 (2019 年 4 月出版) に 'Magnetic Power in Henry Vaughan's Poetry' 論文を掲載することができた。

初年度の 2017 年には、ヴォーンの詩的表現の分析を行い、ブレコンや大英図書館での資料収集を行った。ヴォーンの詩的表現は神秘主義思想の影響が強く、科学技術が発達する前の思想を反映するものであるといえる。イギリスの大英図書館及びブレコン州での調査を行い、ヘンリーの双子の弟であり、錬金術師であったトマス・ヴォーンの文献を閲覧、調査し、兄ヘンリーとの関係を明らかにする研究を行い、これらの成果について 17 世紀英文学会関西支部例会において、「ヘンリー・ヴォーンと磁力」と題した発表を行った。ヘンリー・ヴォーン詩的表現における磁力 ('magnetism') のイメージは、これまでの研究においても論じられてきた。ヴォーン磁力の使い方は、初期の作品群の中における場合と『火花散る火打ち石』の作品群の中における場合とでは変化しており、そして後者においては、ウィリアム・ギルバート (William Gilbert) の影響を受けていることが指摘されてきた。よく知られたギルバートの磁石論の大きな科学的貢献は、コンパスの針が北を指するのは北極星が磁気を帯びているからだというそれまでの説を覆して、地球自体が磁石であることを主張した点にあるが、それはギルバートが熱心にアニミズム的な宇宙観、地球も靈魂を持っているという考え方を信奉したと深く関わっていることが分かった。ギルバートの磁石論は、17 世紀の前半、大きな影響力を維持し続けており、サー・トマス・ブラウンやロバート・フラッドの磁石論もそれを基礎にしたものであった。本研究を行うにあたり、階層化された 3 種類の磁力の説明を下層から上層へと逆にたどりながら、これまでの論に加え、ヴォーンを描く復活や昇天が、磁力の概念や磁石のイメージによって裏打ちさ

れている可能性を指摘するとともに、「鶏鳴」(Cock-crowing)と題された詩の中で光を引き付ける鳥の力が磁力として示されていることに注目し、そこに、政治的、宗教的な意味を見出すことを試みた。

2年目の2018年度はヘンリー・ヴォーンの詩に加え、同じく17世紀の形而上派詩人であるエイブラハム・カウリーの恋愛詩の考察を行った。これらの詩作品及びマニユスクリプトを収集するため、イギリスの大英図書館及びブレコン州での調査を行った。研究成果については、ヘンリー・ヴォーンの恋愛詩及び宗教詩と磁力との関係について、ブレコンで開催された国際学会 The Vaughan Association 23rd Colloquium にて、Magnetic Power in Henry Vaughan's Poetry と題した発表を行った。この発表の中では、ヴォーンの磁力の表現には政治的意味合いが内包されていることを提示した。また、エイブラハム・カウリーの恋愛詩における医学的側面をオヴィディウスの指南書、ロバート・バートンなどの医学書から考察し、鳥取大学で開催された、日本英文学会中国四国支部大会 第71回大会において、「エイブラハム・カウリー (1618-1667年) の『ザ・ミストレス』再考— 初期近代英詩の恋の病の治療法」と題した発表を行った。ダンを始めとする形而上派詩人たちの恋愛詩における描写を医学の側面から再考察した。

3年目の2019年には、本研究の最終目標である Scintilla での掲載を達成することができた。2019年度6月に発行された Scintilla22: Scintilla: A journal of literary criticism, prose and new poetry in the metaphysical tradition に論文 'Magnetic Power in Henry Vaughan's Poetry' を掲載した。この国際雑誌には、Jonathan F.S. Post, Walking with Vaughan in Silex Scintillans, Jonathan Nauman, "The Philosopher's Vision: Experiencing the Consolatio Philosophiae in Silex Scintillans and Thalia Rediviva, などの論考が収録されている。本論考では、この論文の中では、ヘンリー・ヴォーンの詩群の科学的な表現に注目し、詩人が、復活の表現に磁力の双方向の力を描いていることに注目した。磁気というものが光であると考えられていたことは、例えば、ロバート・フラッドの論文からも見て取ることができる。また、アタナシウス・キルヒャーが考案した sunflower clock も光の磁気を応用したものである。詩の中でヴォーンは、鶏が光の家への道を知っているかのようだ、と歌っているが、実際に17世紀当時、鳩などの鳥が磁力をもち、巣に戻る道を理解していたことは、例えば、ロバート・フラッドが、新プラトン主義的なエマナチオの概念を用いながら、磁力を説明した叙述があることからわかるが、この思想がヴォーンの表現のなかにも表れていることを示した。

2020年度が本研究の4年目であり、最終年度となる予定であった。2020年度は最終年度であり、初期近代英国における科学思想と英文学作品の関係をまとめる予定であった。しかしながら、COVID19の蔓延の影響により、渡航を中止せざるを得なくなり、現地での調査を行うことができなかった。また、イギリスおよびアメリカで予定されていた国際学会(The Vaughan Association, Renaissance Studies など)が軒並みに中止となり、海外の研究者との研究会の実施も中止せざるを得ない状況となった。そのため、前年度に執筆した英語論文のネイティブチェックの謝金以外はすべて来年度に繰り越すこととした。以前に投稿を行った、錬金術とヘンリー・ヴォーン、アンドリュー・マーヴェルの論考を *The Seventeenth Century* に掲載した。

COVIDの影響により2021年度の学会もすべて中止になった。2022年度にはオンラインでイベントが開催され、それに参加することとなった。2023年も国際学会に参加することはできなかったが、Jonathan Post, Robert Wilcher, Donald R. Dickson, Helen

Wilcox などの 17 世紀研究者とのオンラインでの討論を行うことができた。その中で、本研究の目的である、17 世紀英文学における磁力の位置づけと、清教徒革命の混乱期における音楽の役割を浮き彫りにすることができた。このテーマについて、ジョージ・ハーバートと初期近代音楽についての論考を発表した Simon Jackson とより深く議論することができた。また、Elizabeth Siberry などの歴史研究者との議論のなかで、17 世紀のウェールズにおける磁力の扱い方と王立学士院での錬金術の研究が密接に関係していることを明らかにした。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 4件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Mai Matsumoto	4. 巻 36
2. 論文標題 Eschatological alchemy in Henry Vaughan and Andrew Marvell	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The Seventeenth Century	6. 最初と最後の頁 213-232
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/0268117X.2020.1746925	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 松本舞	4. 巻 16
2. 論文標題 猫と犬、そして撫でるという幸せ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 表現技術研究	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Mai Matsumoto	4. 巻 22
2. 論文標題 Magnetic Power in Henry Vaughan's Poetry	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Scintilla	6. 最初と最後の頁 167, 187
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 松本舞	4. 巻 15
2. 論文標題 猫と愛の物語 トマス・フラットマンの恋猫、ポール・ギャリコの仔猫のためのマニュアル、 マルチウリアーノの猫のふみふみ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 表現技術研究	6. 最初と最後の頁 1,16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Mai Matsumoto
2. 発表標題 Magnetic Power in Henry Vaughan ' s Poetry
3. 学会等名 The Vaughan Association 23rd Colloquium ( 国際学会 )
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松本舞
2. 発表標題 エイブラハム・カウリー (1618-1667年) の『ザ・ミストレス』再考 初期近代英詩の恋の病の治療法
3. 学会等名 日本英文学会中国四国支部大会 第71回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松本舞
2. 発表標題 ヘンリー・ヴォーンと磁力
3. 学会等名 17世紀英文学会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 浦野 郁、奥村沙矢香、中島渉、松本舞ほか	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 250
3. 書名 よくわかるイギリス文学史	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 Hiroshima Association Renaissance Studies	開催年 2019年～2019年
---	--------------------

## 8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------